

## ITは改革の道具？

中 村 洋 一

茨城県立医療大学保健医療学部 教授

診療情報管理士教育委員会 委員

専門課程小委員会 委員長

「我が国が5年以内に世界最先端のIT国家となる」ことを目指し、高度情報通信ネットワーク社会形成基本法（「IT基本法」、2000年11月29日）を制定して始まった日本の「e-Japan戦略」も5年が経過し、今年の1月19日には、さらに今後5年間の「IT新改革戦略」が発表された。この中で、「e-Japan戦略Ⅱの策定以降、医療分野の情報化については先導的7分野の一つとして重点的に取り組んできたところであるが、情報化の状況は未だ低いレベルに止まっている」と指摘され、「医療の構造改革をITにより推し進め効率的な医療を国民に提供すること」が述べられている。

そもそもコンピュータは計算の道具であり、高速に、そして正確に答えを出す機械であった。また、記憶装置の進歩に伴い、情報の蓄積、すなわちデータベースの機能が高まり、現在の電子カルテシステムもその恩恵にあずかっている。さらに、IT（情報技術）とCT（通信技術）とが相まってICT（情報通信技術）となり、地域医療連携における医療情報の共有にも一役買いつつある。情報処理のとても良い道具でしかなかったコンピュータを、「e-Japan戦略」では社会の構造改革の道具として活用している。

私が社会へ出る直前、それまで勉強させていただいていたT大学病院電算機企画室のK先生から2つのことを言われた。1つは「虚業はいけない」、そしてもう1つは「2つの研究テーマを持ちなさい」であった。この教えを守り、私はITで金儲けはしなかった。もう一方は、赴任先の公衆衛生学教室のテーマであった「高血圧・脳卒中の疫学と地域管理」と自分自身の「医療情報学」を2つのテーマ（二足のわらじ?）とした。

通教生の皆さんは、強い意思を持って、日々の業務と診療情報管理士の勉強との「二足のわらじ」（前号の川合先生による）を履いて勉学に励んでいることと思います。最近、医師や看護師の資格をお持ちで、診療情報管理士の資格をお取りになる方も増えつつありますが、診療情報管理士一筋、と考えている通教生の方も、めでたく診療情報管理士の認定を受けた暁には、軸足は診療情報管理士に置きながらも、二足目のわらじをお探しになることをお勧めします。その際には、ぜひ、ITスキルを高め、自己改革にITの力をお使いになってはいかがでしょうか。